

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会の賛助会員のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会 /ただいまより、第13回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開会します。本日は、最近の奈良県内における感染状況と対応について、を議題とします。

なお、対策本部会議終了後は知事記者会見をこの場で行います。

おそれいりますが、公務の都合により、全体を通して14時を目途に終了とさせていただきますので、ご了承よろしくお願ひします。

配布資料に関し、関係部局長からの報告をお願いします。

最初に危機管理監よりお願ひします。

危機管理監／危機管理監の杉中です。

感染判明者の発生状況を、資料に基づいて報告します。

2 ページ

1. 感染判明者の発生状況

7月4日、1か月以上ぶりに感染者が判明しました。

4日から12日の間に発表した感染事例が、全部で27例あります。

特徴として、県内での感染経路がほぼ特定できている状況です。

3 ページ

2. 感染経路の推定による分類

感染経路の内訳です。

感染経路を分析し、推定することによって分類をしています。

①大阪での飲食、勤務、買い物による感染 13例

これが非常に多い。

奈良県における感染経路の特徴といえる。

行動歴や素行の分析から導き出される推定感染経路を右端に表示しています。

4 ページ

その他、特定の事業所等で感染事例が発生しています。

②県内の事業所内（佐川急便(株)奈良営業所）での感染 6例

6例の感染事例が発生しています。

③病院内（近畿大学医学部奈良病院）での感染 2例

病院内での感染事例です。

④県立学校の部活等における感染 3例

3例発生している。

5 ページ

⑤家庭内での感染 1例

この事例の中で、家庭内で感染が疑われる事例が1例あります。

⑥調査中 2例

現在感染経路を調査中が2例あります。

この2例以外は、感染経路がほぼ推定できていると理解してもらいたい。

6 ページ

3. 感染経路から判断する注意事項

感染経路を慎重に推定した結果から判断して、類型、経路ごとの注意事項を示しています。

県民の方は、こういったところに注意して出かけていただきたい。

手洗い、手指消毒、マスク着用等、全てのものに共通する事項は、この中では割愛している。

それぞれの出かけ先ごとの注意事項を書いています。

①大阪での飲食は注意して

②大阪でのカラオケは注意して

③大阪での買い物は注意して

「大阪での」と書いているのは、経路の分析で、大阪に行って感染するケースが非常に多いと推定されるためです。

大阪での飲食は注意して、大阪でのカラオケは注意して、という書き方をしている。

経路の中での特徴で、飲食では、多人数や長時間の外出での感染があったのではと推定される事例があります。

そこから導き出した、必要な対策だと理解してほしい。

7 ページ

- ④勤務先でも注意して
- ⑤帰宅後に「うつさない」ことにも注意
- ⑥勤務先で「うつさない」ことにも注意

勤務先での注意。

出かけた後、帰宅後に「うつさない」ことに注意。

また、勤務先で「うつさない」ことも注意していただきたい。

今まで分析していた事例の中で、例えば⑥の中に

「症状がある場合は、自宅で療養」と書いているが、症状があるにもかかわらずしばらく勤務を継続し、感染を広げたのではないかという事例も、この中にいくつかあります。

そういうところには特に注意をいただきたい。

8 ページ

4. 対応状況

このような感染事例に対して、どういう対応しているかを示している。

感染者は軽症または無症状の方ばかりです。

自宅療養させることなく、全て入院隔離を行ない適切な治療をすることにより、重症化の予防を図っています。

また、保健所が積極的に疫学調査をして濃厚接触者を特定し、PCR 検査を実施して、感染拡大の防止に努めています。

複数の感染者が判明した施設等における対応状況は、それ以降です。

佐川急便奈良営業所は、感染経路を探索するとともに、複数人の感染が発生した要因調査を、現在おこなっています。

以下の事例については、所管の局長から説明します。

司会／次に、医療政策局長よりお願いします。

医療政策局長／

9 ページ

近畿大学医学部奈良病院の事例について説明します。

同病院で、院内感染が発生した。

最初に発生した病棟は、PCR 検査がほぼ終了しています。

退院されている患者 1 人は、調整中です。

それ以外は結果が判明済みです。

新たに感染者が発生した病棟は、現在入院している患者、勤務している職員は検査が終了しており結果は陰性と出ています。

未判明者は、退院された方や病棟に少しだけ関わった方が残っています。

順次 PCR 検査を行なっています。

病院全体では、発熱症状のある患者や病院関係者は、優先して検査を行っています。

現時点で判明している中では、陽性者はおらず、全て陰性です。

司会／教育長よりお願いします。

教育長／県立学校での対応状況について説明します。

10 ページ

7月8日に、最初に陽性者が判明しました。

9日、10日、13日と、臨時休業しています。

9日、10日には、校内の消毒を行なっています。

感染者と同じ授業を受けるなど、接触した生徒、教職員は7月19日まで自宅待機をしていただきます。

吹奏楽部の52名を濃厚接触者と特定しました。

PCR検査の結果は、濃厚接触者の内2名が陽性でした。

2名の女子生徒（A、B）のクラスメイトと教職員は116名で、念のためにPCR検査を実施しました。

陽性者はゼロでした。

2名の女子生徒（C、D）のクラスメイトと教職員に、症状は出ていません。

今後、症状が出現すれば、直ちにPCR検査を調整したい。

県教委からは、7月10日付けで「感染症対策の徹底」「同居家族に体調不良者がいる場合の登校に対する考え方」の通知を発出しました。

明日以降の対応は、本日16時から県教委で発表させていただきたい。

司会／危機管理監からお願いします。

危機管理監／県職員に感染事例が発生したことを報告します。

11 ページ

5. 県職員の感染

7月11日土曜日に、本人の連絡で感染が判明した。

感染者は40代、県土マネジメント部技術管理課の職員です。

症状の概要は、資料のとおりです。

県の初動対応は、執務室の消毒を迅速に行ないました。

休みの間に消毒は全て済んでいます。

奈良市保健所により、濃厚接触者を職員 7 名に特定しました。

本日から自宅待機しています。

この濃厚接触者特定には、県のマネジメント部も協力・連携して、特定を進めました。

県職員から感染者が発生したことによる今後の感染拡大防止の対応。

職員へ「うつらない・うつさない」意識を徹底させることが大事だと考えています。

改めて、マスクの着用や手洗い、手指衛生等の対策を周知徹底したい。

感染者、濃厚接触者等に対して、差別、偏見、誹謗中傷をしないよう職員に対して人権意識の周知徹底を図りたい。

私からは以上です。

司会／その他のご発言はありますか。

よろしいですか。

それでは、最後に本部長の知事よりご発言いただきます。

知事／ご報告を、ありがとうございました。

今回の感染例を見ると、1 次感染と 2 次感染に分けられるように思う。

1 次感染は大阪でうつされた人で、2 次感染は県内でうつした人。

2 次感染は、県内でうつした場所が特定されています。

1 つは佐川急便の事務所。

(2 つめ) 近大奈良病院。

3 つめは、ご家庭が 2 人。

それから (4 つめが) 学校。

この 4 つが、県内の感染。

1 次感染のパターンがある。

前は、大阪の職場での感染が多かった。

(今回は) 飲食やパーティーなどです。

大阪での感染パターンを調べて、気をつけてもらおうというのが第 1 点です。

大阪での感染にどう対処するかは、奈良にとって大きな課題です。

1 次感染の対処として、往来自粛は必要ないと思っています。

往來を自粛される必要はない。

勤務で大阪に行かれてる方も多いので、往来自粛というわけにはいかない。

大阪に行かれたときに、うつされないように気をつけてください。

大阪に行ったらどこでもうつするというわけではなく、特定の場所、パターンがありますと言ったのは、そういう意味です。

うつされたパターンがあるので、それを特定して、うつされやすい場所に行くときには、十分気をつけてください。
これが奈良県の方針です。

2つめのお願いは、家に帰ってからうつさないようにしてくださいねということです。

前は、大阪の勤務先でうつされて、家庭に帰ってうつした。

こうしてうつされた人が、お子さんも含めて10名を超えていました。

今回はまだ、今のところ少ない状況です。

その一方、佐川急便の事務所でクラスターといってもいい集中感染があった。

学校でも、同じ部活の人が感染した。

クラスターと言えるかどうか分からないが、同じ病院で患者さんが2名感染した。

(家に)帰ってからうつされたケースが非常に明確です。

県内での2次感染を防止することが、県庁の我々の大きな仕事だと、改めて認識したいと思います。

そのためには、疑わしいケースや感染者が発生した職場などでは、濃厚接触者を広く特定して、PCR検査をして安全を確認しているが、今後も続けたい。

陽性者が判明したら、大阪や県内でうつされた方をとにかく隔離して、3次感染がないようにすることが、今最大のポイントです。

また、県職員の方は大阪在住ですが、どのようにうつされたのかはわからない。

県庁内での発生ではないと思われる。

2次感染ならば、うつした人が県庁内、あるいは奈良県内におられる可能性があります。

調べは進んでないが、1次感染は大阪だろうと思われま。

2次感染は、県庁内では発生していない。

1次感染だけなので、この方は、大阪の統計に計上されている。

県庁職員なので、2次感染が発生しないように用心してほしい。

総括的なことを申し上げます。

これだけ感染事例が連続して発生しているが、報告を受けたように、感染経路は概ねわかってきている。

感染経路の推定をもとに正しく注意をしましょう、うつらないように行動しましょうということが基本です。

うつらないように行動して、元気に社会経済活動をしてください。

感染のリスクがないわけではないが、用心すればそこそこ大丈夫だとわかってきた。

適切な用心さえすれば、健康のための社会活動、経済が回るためのいろいろな消費などは、どんどんしていただいてよいと思う。

うつらない、うつさないことを、どのように奈良県が進めるかについて。

今までも言っているように、うつらない、うつさないを習慣化をする。

昔はしなかったことも、今はこんな時だからと習慣化して、うつらないよう、うつさないようをお願いしたい。

うつらない対策として、こういう所に行ったり、こういうことをすると不用心で、うつるリスクが高いのだと、ケースをもとにその都度、県民の方に報告をしたい。そういうことでうつされた人がいるのか、避けた方がいいと判断していただくのが一番いいと思う。

最近、うつされた方が出ているので、うつされないように用心してくださいという言い方をしようかと思う。

職場、家庭、学校、施設などでの、うつさない配慮の習慣化について。

今後は分からないが、前は家庭でうつした事例が多かった。

今回は、あまり出ていない。

家庭でうつさないよう気をつけていただければ、うつさないことは十分可能だと思います。うつさないことの習慣化を、続けていただきたい。

それから、感染のケースを勉強して、どのようにしてうつされたのかを明確にし、どのようにすればうつされないのかを、その都度説明をしたい。

今後の拡大防止の基本的な考え方を、4つ申し上げる。

1つめ。

これまで死亡例は少なかった。

今は、軽症、無症状の方がほとんどです。

だが、死亡につながるリスクはあるので、重症化を極力防ぐ。

それが第1の目標になろうかと思う。

感染して陽性が分かったら、全員隔離、入院することを今まで達成している。

今後とも2次感染を起こさないために、引き続き全員隔離をしたい。

これが第2原則です。

そのような方針だと、ベッドが足りなくなると困る。

医療崩壊につながらないよう、感染症の医療体制を整備する。

医療崩壊を起こさせないというのが、第3原則になる。

学校や病院で、まだ基準がはっきりしないところもあるが、感染した施設は、一定期間閉じることがある程度必要かと思う。

そのような基準を基に、感染者が出たら、その場所で感染しないようにする。

感染した施設、学校や病院は公の施設です。

県内の飲食店での感染は、まだ発見されていない。

休業要請という形にはしないが、県内で感染者が出た飲食施設があれば、気をつけて、一定期間休業することが望ましいかと思う。

今のところ、これらの4つの原則を基本に対策を進めていきたい。

最後に。

このコロナウイルスは、人を差別なく襲う。

いろいろな人に平等にうつる。

うつる確率の高い業種の方も外国ではおられるが、ウイルス自身は平等。

医療関係者で感染された方々への中傷が、これまでも見られた。
中傷や差別をしても意味がないので、そういうことは絶対にやめていただきたい。
最後に、これをお願いしたい。
本日の総括は以上です。

司会／以上で、第13回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を終了します。
引き続き、報道機関の皆さんの質問をお受けします。
本部委員の方は退席してください。

司会／では、ただ今より質問を受けます。
公務の都合上、質問は14時で締め切ります。
では、質問のある方は挙手をしてください。

記者／奈良テレビのニシムラです。
お願いします。
先ほどの会議で、佐川急便の奈良営業所で5人以上の感染者が確認されました。
先ほど知事は、クラスター集団感染と言ってもいいというようなことをおっしゃって
いました。
クラスターの認識をされているということでよいですか。

知事／佐川急便のケースは、クラスターかなと思います。
この前もクラスターの定義の質問があり、どのように定義するかを考えました。
今のところ奈良県では、同一の感染源から、同一の集団において、5名以上の感染が確認され
た場合をクラスターと呼ぼうかと思っています。
例えば近大奈良病院では、同一の感染源ではない看護師さんがそれぞれおられて、それぞれ
違う場所で感染して、同時期にもって来られたと見受けられます。
これは、クラスターの根っこが2つあると判断されます。
患者さん2人、看護師さん3人で合計5人だが、たまたまクラスターのケースには入らない。
同一の感染源から同一の集団に感染と判断すると、佐川急便の場合はクラスターになると思っ
ます。
学校は、まだクラスターにならない。
5名になれば、クラスターと申し上げます。
定義の話ですので。

記者／ありがとうございました。

記者／NHKのマツイです。
大阪との往来のことでお伺いしたい。

1次感染は大阪だが、往来自粛という判断はしないということだった。
大阪でも、黄信号という形で、一段上げて注意を呼びかけている。
大阪府の判断をどう見ておられるのか。
また、黄信号を、奈良県民にどのようにメッセージとして伝えるのか。

知事／大阪の状況は、よくわからない。
近大奈良病院の最初の感染者は、大阪で夜通しパーティをされていたことはわかっています。
そのとき、大阪の方も11名か12名、一緒に参加されていた。
だから大阪の方も感染されているように思うが、その情報は、今のシステムだと入ってこない。
こちらからでは、そこがクラスターだったと、すぐにはわからない。
大阪に、その場所でのPCR検査がどうだったかを、聞こうと思っている。
大阪の感染者に計上されるはずですよ。
すると、そういう場所は、大きなクラスターが発生したと認定できる。
そうになると、そういう場所には行かないようにと、注意ができると思っています。
大阪のどこもが危ないわけではなく、そういう場所が危ないと絞り込んで、奈良県民に注意
させていただけたらと思っています。
大阪全体では増えていて、波が来るわけです。
大阪の人が来て、奈良でうつしたというケースがある。
前回、大阪の社長さんが、奈良の事業所に来て、従業員にうつしたというケースがあった。
今回はまだそういうケースは見受けられません。
奈良の人が大阪に行ってうつされて帰ってこられたケースは、今のところ、大阪との感染の
経路だと判断できます。
奈良の人には、もちろん大阪に行ってよいが、危ないところには行かないようにしてください、
危ないところは今のところこのようにわかっていますよと、ご注意申し上げあげようと思っ
ています。

記者／大阪では、飲食店に対して感染対策をしているところには（感染防止宣言）ステッカー
（の発行）をしている。
やってない（ステッカーを貼っていない）ところにはあまり行かないようにという呼びかけも
されています。
奈良のかたが（大阪の飲食店に）行く際には、そういったところも参考にして、注意して
ほしいということなんでしょうか。

知事／それと、もう少しわかればいいのだが、大阪でうつされた飲食店というのは、対策され
た飲食店か、そうではなかったのかが分かればと思う。
シールドなどの対策があったのにうつしたうつされたとなれば、シールド対策などがあっても
危ないという注意をしないといけません。
そういう場所のないところ、たとえば、シールドのない大部屋で、わあわあと（喋っていた）

場合、シールドがあればうつされなかったというのは、なかなかケースとして出てこない。うつされた場合にシールドがあったのなら、シールドは役に立たないなという判断ができるのだが。

うつされなかったケースは、こうしたからうつされなかったという証拠がなかなか出ない。うつされたケースは、こういうケースでうつされましたという積み上げをしていき、(うつされたのは) 対策がとられてない店ばかりだったのかがこれからの問題となります。どういう店でうつされたのかは、うつされたご本人は自覚できないものですね。どういう店だったかを念入りに聞いて、推定するという手法をとっています。適切な情報が集まりきらないとは思いますが、このような手法で、危ない場所を特定していこうと思っています。

記者／読売新聞の小林です。

前回、知事会見の時に、現時点ではまだ第2波ではないというご認識だったと思います。その後、現時点でその認識には変わりはないでしょうか。また、フェーズの引き上げの検討はいかがでしょうか。

知事／（職員に向かって）なんて？

職員／フェーズの引き上げの検討はいかがですか。
第2波ということをお考えか。

知事／すいません。

それは、第2波の定義ということになります。

第1波で毎日の日々の波が一番高かったのは9人でした。

それがダラダラと続いた。

ある程度連続し、累積が上がってきた。

波が累積で上がってきた。

これは医療の病床数が足りなくなるというので波だと認識し、病床総数の確保のために走ったという経験があります。

感染者が増えてくると、それを波と言うことがある。

それが第1波と同じようなものかどうかは、今続いているのが（感染が）、ずっと続くのかどうかということによると思う。

（いまの状況が）第2波といえるのかどうかという定義の話ですが、言うのかな、それほどでもないのではないかなと（思います）。

予断は許しません。

これからどんどん増えていくかもしれません。

そうすると、第2波がいつから始まったのかということ定義しないといけない。

あとから見ると、7月4日の1人から始まり、それがずっと続いてきたから（第2波）と

言えるかもしれないが、これが第2波かという、もう少し経って見ないとわからない。あとで振り返って、第2波だったというのが実態です。

なんともしまらない話だが、厳密に考えると、そのように思います。

要は、第2波として用心するかを問うておられるのではないかと思います。

第1波が、わからないウイルスが急にきて、うわっと増えた状態になる。

波という定義をしたときの心配事は、波が来ると、水の波もそうですが、沈没してしまう。ということは、病床がなくなってしまうということが、波の襲来を判断するときの大きな要素でした。

これは、第1波の場合です。

その心配は、第2波と言おうが言うまいが、今のところはありません。

だから第1波といって心配したときの状況にはないと、客観的に言えると思います。

現象として第2波になるのかどうか。

東京や大阪を第2波というのかと同じレベルで、奈良を第2波というのかは、行政的には大きな課題ではないと思います。

感染者が続いてきているということは用心しないといけない。

第2波であろうとなかろうと、用心しないといけない事象だと認識している。

今日の対策会議も、続いてきている感染者への対応を改めて確認した。

第2波というかどうかは、はっきりしないといけないなら、今のところは「まだ読めません」ということにさせていただきたい。

後から振り返ると、(このまま感染者が)連続すると、7月4日から第2波が始まっていたと言わないといけないケースがあるかもしれません。

しかし今日の時点では、まだもう少し続くかどうかを見て、波だと思ったりします。

上がったか下がったか、このままいく可能性もある。

その場合は、1人だけでも7月4日から第2波が始まったと言えると思います。

もう少し様子を見たい。

記者／ということは、現段階では奈良県の設けたフェーズの引き上げは検討されていないのですか。

知事／奈良県のフェーズは、注意を上げる下げる(ことで)、フェーズⅡ、注意を続けよう(という状態になっている)。

注意のパターンが、当時は自粛とリンクしてたような場合もあります。

こちらも考えて、ウイルスの出方を見て、地域ごとに作戦を練り、フェーズに作戦のバラエティーが出てきたと思います。

フェーズの認識の仕方、注意の仕方について。

奈良県は大都市隣接県なので、地方とフェーズの内容が違って来るように思います。

最初のフェーズは、自粛をどうするかというときのものだった。

今のフェーズの判断で、第2波かどうか、という(話には)直接にはならないように思っ

います。

記者／ありがとうございます。

司会／時間ですので、最後の1問にしたい。

知事／向こうにも（手が上がっている）。
あと2人。

記者／すいません、一点だけ。

今、東京問題とされています。

知事は今、東京第2波といみじくもおっしゃったが、東京との往来についてはどうお考えですか。

知事／さっき、大阪との往来を自粛しなくていいと申し上げた。

それと同じように、東京との往来も自粛されなくてもいい。

東京の方が怖いんですかね、ちょっとよくわからないんだけど。

東京の様子は、どこに行けば危ないのかよくわからないんだけど。

用心をして、うつらないように行ってくださいということ。

基本的には同じことです。

東京から来られるかたも、用心をして来てくださいね、お互い様ですから。

用心すれば、ずいぶんリスクは減る可能性はあると思います。

今までのケースを見ていると、全然用心してなかったじゃないのというようなケースが多い。

少しでも用心すると、ずいぶんリスクは減ってくると思います。

司会／それでは、最後の最後（の質問に）

知事／すみません答える方が長くなって。

質問の時間を減らしているようで、すみません。

記者／産経新聞です。

先ほど知事が、大阪等の危ない場所はここですよと伝えて、リスクを管理してほしいとおっしゃっていた。

現状の感染者の発表等以外で、何か新たに県民に情報を伝えることを、今、お考えですか。

知事／どんな情報がありますかね。

奈良県のデータが、注意をするやり方の元手になっています。

大阪とか東京は数が多いので注意の仕方を分類するのは大変かなと思う。

奈良県はパターンが限られています。

先ほどのケースを見ると、13例の大阪での飲食勤務買い物の中では、飲食が多いんですね。そのケースが特定されると、こういうことでうつされたんですよということがもう少し言える。

そうすると、そういうケース用心すればうつされないと判断をされると思います。

うつされたケースを、なるべく身近な注意に結びつけるようにしていきたいと思っています。それを大げさに言わないように、しかし、しっかりとと言えるようにというのが今やろうとしていることです。

県民に、どのようにうつされたのかわかっていると、お友達でも、お子さんにでも、大阪に行ってこんな場所に行ったり行動パターンをとったら、うつされる可能性が多いから（と注意してもらえる）。

雨が降ったところに、傘なしで出かけたりたら風邪を引くというような、日ごろの日常と同じようなケースだと思います。

用心をすれば、感染症はずいぶん避けられるのは、歴史的なことだと思います。

今までは用心の数が多かった。

何を用心すればいいか。

5つも6つも用心して出かけると、用心すること忘れてしまうことが多い。

1つ2つを覚えて用事してくださいねというのが、日ごろの人間のできることじゃないかと思う）。

なるべく絞ってご注意したいと心がけています。

そのケースがうまく分析できたら、だんだんそのようになってくると思います。

これからそういうふう努めていきたいと思っています。

記者／ケースを分析して、具体的な感染事例として、こういう場所でこういうことをしたからうつりましたよということを、今後発表していくような形ですか。

知事／どこでとか具体的な名前とかではなく、注意に役立つように、このようなケースではこのようにうつされたと言えれば、それで十分じゃないかなと思っています。

注意のための経路推定と思っています。

司会／よろしいでしょうか。

それではこれで、本会議を終了させていただきます。

ありがとうございました